



上富囃子保存会のお囃子の奉納（元日）

平成二十九年の新春を迎へ、謹んで新年の御祝詞を申し上げます。

天皇・皇后両陛下におかれましては、おすこやかに新春をお迎えになられましたこと、慶賀の至りに存じ上げます。

氏子崇敬会の皆様方におかれましては、ご健勝にて新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年五月には伊勢志摩サミットが開催され、

神明の無辺のご加護をいただき、氏子崇敬者の皆様にとつて、本年が幸多き年になりますことを心よりお祈り申し上げます。

とめ しんめい
富の神明さま

発行所
三富富岡総鎮守
神明社
社報第12号
〒359-0002
所沢市中富1507
社務所電話
04-2943-1709
宮司宅電話
049-259-2228

新年のご挨拶

三富富岡総鎮守

神明社

各国首脳が皇大神宮を崇敬され、二千年にわたり自然と調和し、人々の平安を祈り続けてきた神宮の歴史に触れていただいたことは大変意義深いことでした。これを機に日本の精神文化の神髄ともいえる神道が広く理解されることを期待しています。

都市化が進み社会構造が変化する中で、神社や家庭での祭祀を通じて日本の精神文化を次世代に継承していくことは肝要であると考えます。

★**落ち葉堆肥農法**
世界農業遺産へ

8月24日、武蔵野の落ち葉堆肥農法世界農業遺産推進協議会が発足し、将来に受け継がれるべき伝統的な農業システムとして世界農業遺産に認定申請されました。



武蔵野台地に位置する川越市、

所沢市、ふじみ野市、三芳町は、火山灰土に厚く覆われ作物が育ちにくい土地でした。江戸時代、川越藩主松平信綱公、柳沢吉保公によって新田開発が行われ、多くの木を植えて平地林（ヤマ）として育て、木々の落ち葉を掃き集め、堆肥として畑に入れて土壌改良を行ってきました。

こうした360年にわたり続けられてきた伝統農法を「落ち葉堆肥農法」と呼びます。この「落ち葉堆肥農法」は今も受け継がれ、それにより平地林は各市町全域にその面影を多く残り、育成・管理されて景観や生物の多様性を育むシステムが作られています。

当神明社の氏子区域もその地域内にあり、氏子農家で「落ち葉堆肥農法」を継承されている

方も多くいます。

今後、2月頃第二次審査が実施され、3月頃世界農業遺産認定申請に係る承認及び日本農業遺産の認定結果が通知されることとなります。

写真は、左側から右に正会員のJAいるま野代表理事組合長代理原田代表理事専務、ふじみ野市高畑市長、所沢市藤本市長、三芳町林町長、川越市川合市長、川越農林振興センター橋本所長。

対象農家は約80戸。



世界農業遺産推進協議会の発足式



「なでいも」

南永井村（現在の所沢市南永井）の名主、吉田弥右衛門は、そんなところでもよくできるというサツマイモの話聞き、その導入と普及に努めました。

関東でのサツマイモの試作に最初に成功したのは、江戸の学者、青木昆陽（甘藷先生）で、享保20年（1735）のことでした。弥右衛門の試作は、それから16年後の寛延4年（1751）のことです。そのサツマイモは最初は飢饉に備えて作られました。すぐ農家の自家用の食料として積極的に作られるようになりました。それだけではありません。のちには江戸にたくさん現れた焼き芋屋用のいもとして、いかにすれば商品作物としても作られるようになり、貴重な現金収入源になりました。おかげで苦しかった人々の暮らしが楽になりました。

神明社では、当地が「川越いも」の本場であることから、平成18年11月23日、作り初め255周年を記念して、弥右衛門さんの功績を称えとともに、関東のサツマイモ作りの元祖である甘藷先生と合わせて『甘藷乃神（いものかみ）』としておまつりさせていただくことになりました。

やせた土地でも丈夫に育ち、干ばつや病虫害などにも強いサツマイモは生命力の象徴でもあります。

いも神さまの御利益には、健康・家内安全・子孫繁栄・開運などがります。おまいりには社前の「なでいも」をなでて、神様の力を頂いてください。

いも神社

◆御祭神 甘藷乃神（いもの神）

吉田弥右衛門（よしだやえもん）

青木昆陽（あおきこんよう）

◆いもの神の由来

当地は武蔵野台地のまん中にあります。土が乾ききっているところで、夏の干ばつによる農作物の被害が特にひどいところでした。

南永井村（現在の所沢市南永井）の名主、吉田弥右衛門は、そんなところでもよくできるというサツマイモの話聞き、その導入と普及に努めました。

関東でのサツマイモの試作に最初に成功したのは、江戸の学者、青木昆陽（甘藷先生）で、享保20年（1735）のことでした。弥右衛門の試作は、それから16年後の寛延4年（1751）のことです。そのサツマイモは最初は飢饉に備えて作られました。すぐ農家の自家用の食料として積極的に作られるようになりました。それだけではありません。のちには江戸にたくさん現れた焼き芋屋用のいもとして、いかにすれば商品作物としても作られるようになり、貴重な現金収入源になりました。おかげで苦しかった人々の暮らしが楽になりました。

神明社では、当地が「川越いも」の本場であることから、平成18年11月23日、作り初め255周年を記念して、弥右衛門さんの功績を称えとともに、関東のサツマイモ作りの元祖である甘藷先生と合わせて『甘藷乃神（いものかみ）』としておまつりさせていただくことになりました。

やせた土地でも丈夫に育ち、干ばつや病虫害などにも強いサツマイモは生命力の象徴でもあります。

いも神さまの御利益には、健康・家内安全・子孫繁栄・開運などがります。おまいりには社前の「なでいも」をなでて、神様の力を頂いてください。

いも神さまの御利益には、健康・家内安全・子孫繁栄・開運などがります。おまいりには社前の「なでいも」をなでて、神様の力を頂いてください。



総代会会長
鈴木 理市

新年明けましておめでとう
ございます。

氏子並びに崇教会の皆様には、健やかに新しい年をお迎えいただいたものとお慶び申し上げます。

皆様方には日頃より神明社繁栄のためご尽力を賜り心より御礼申し上げます。

昨年は、熊本地震、鳥取地震、度重なる台風など自然災害の多い年でした。犠牲になられた方々に哀悼の意を捧げるとともに一日も早い復興を願ってやみません。
また、伊勢志摩サミットも

開催され、各国首脳が伊勢神宮を参拝されました。我が国の伝統的な作法にそった形で表敬された後の感想では、神宮の清々しさや神々しさが諸外国の人とも共有できる普遍的なものであることを確認させてくれました。天皇陛下の大御心をいただき、世界の平和と神道精神や日本文化の理解が一層広がることを願っています。

新しい年を迎え今年こそは何事もない平穏で平和な暮らしができるよう神明社氏子総代会一同、神社発展のため皆様と共に尽力してまいりますので皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

◆神明社由緒 御祭神

天照大御神、倉稲魂命（うかのみたまのみこと）、菅田別尊（応神天皇）（ほんだわけのみこと）、大山祇命（おおやまつみのみこと）、木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）、進雄命（すさのおのみこと）

当社は元禄9年（1696年）川越城主柳沢出羽守領主の節、上富村、中富村、下富村の三ヶ村を開かれた折、一寺一社の制に基づき12,500坪の地を除地せられ、鎮守のお宮として毘沙門社と多聞院を創立、後年、該院境内に神明社を勧請いたしました。時に宝暦11年（1761年）であったと伝えられます。村民一同産土神社として崇敬しましたが、明治2年に至って神仏分離令により473坪を分割し、同年社格制定の節、旧三ヶ村の鎮守であったことから、村社に列せられました。同6年、境内改正により、3,764坪を引裂き上知され、現境内地に1,009坪を第一種官有地に編入されました。明治45年には、享保年間には幕府直轄領として開発された所沢新田、久米新田、神谷新田、堀兼新田、北田新田、岩岡新田にある七社が合祀されました。また昭和3年3月に埼玉県史蹟保存として三富開拓遺跡に指定されました。なお昭和21年2月28日に宗教法人として神社規則を設定し社格廃止され埼玉県神社庁の管轄になりました。